

## 開会挨拶

愛知大学学長 佐藤 元彦

佐藤 おはようございます。紹介をいただきました佐藤と申します。本日は国際シンポジウム「近代日中関係史の中の東亜同文書院」を開催いたしましたところ、このようにお集まりいただきましてまことにありがとうございます。ご案内の通り、東亜同文書院大学記念センターが、文部科学省の戦略的研究基盤形成支援事業に採択をされまして、今年度が2年目ということでございまして、その取り組みの一環として、今回のシンポジウムを開催するというふうに承知をしているところでございます。これもご案内かもしれませんが、東亜同文書院大学記念センターがこの事業に採択をされる前の5年間、私立大学学術研究高度化推進事業に採択されまして、その時期を通して、とくに展示・講演会を日本の各地で開催する形で、さまざまな事業展開をしてきましたけれども、戦略的研究基盤形成支援事業になりましたから、その事業を継続すると同時に、あわせて研究を国際的に展開するというのが、新たな取り組みとして設定されているところでございます。かつての学術研究高度化推進事業の際にも国際シンポジウムを開催した経緯がありますが、戦略的研究基盤形成支援事業となり、さらにその点を深めていくというのが、2年目を迎えた今回の事業の大きな特色になるといえます。そういう流れの中で、この国際シンポジウムが開催されるということは、非常に意義深いと思っております。あわせて個人的には、今回は大陸中国だけでなく、東南アジア、あるいは台湾というところも含めた、学術的な検討がなされるということに、たいへん注目をしているところであります。明日にかけて非常に充実したプログラムに

なっているかと思っておりますので、ぜひよりよき成果が得られるように、大学を代表いたしまして、一言申し上げまして挨拶とさせていただきます。

なお、皆様のお顔を拝見しますと、何度かお会いしている方が多いかと思っておりますけれども、せっかくの機会ですので、少し大学の宣伝をさせていただきます。この新しい名古屋校舎は昨年開校しておりますけれども、おかげさまで二期工事についても、この夏にゴーサインが出ました。具体的には、この建物と新幹線の間には駐輪場・駐車場のスペースがあるのですが、そちらに20階建ての高層棟と国際コンベンションホールを建設するというので、名古屋市の許可が下りました。来年本格的に準備を進めていくということになりまして、最終的には、2016年度末に供用開始を予定しています。ちなみに国際コンベンションホールについては、4か国語の同時通訳ができるような設備を考えています。4か国語というと日本語は当然ですが、あと英語、それから愛大であればやはり中国語、もう一つは韓国語なのかフランス語なのか、そのへんはたぶん選択するという話になると思っておりますけれども、そういう環境も整えていくということになります。その国際コンベンションホールが完成した暁には、このような国際シンポジウムをぜひそこで開いていただければというふうに思っているところでございます。

簡単ではございますけれども、改めて2日間のシンポジウムの成功を祈念申し上げます。どうか2日間、よろしく願いいたします。